

# 街かど

## 別居ばんざい

匿名希望 (中学通り 五十六歳)

私は最近、息子夫婦たちと別居して、私たち老夫婦だけで暮らすようになりました。と申しますとたいていの人は、気の毒に息子夫婦と合わなくて、けんかでもして別居したのだからとお思いになるでしょうが、決してそうではないのです。ごく自然にお互いの立場や気持ちを尊重しあつて、こういうことになったのです。ですから後悔はしておりません。むしろ家内共々喜んでおります。

新潟に住んでいる娘家族は以前、息子の嫁に気がねして、さっぱり顔も見せませんでした。今では晴れ晴れした顔でよく訪ねて来ます。家内もとても嬉しそうに孫たちと遊んでいます。正直申しまして、息子夫婦の子に接するときは、嫁に気がねしてこんなにも伸び伸びと接していな

かつたようです。そして何よりもいいのは食事です。以前は嫁の作った料理は、若い者向きのものが多く、やはり口に合わなかったし、酒を飲むにも気がねばかりして、伸び伸びと飲めなかつたものです。それが今では私の体のことを考えて、家内が作ってくれますので、実においしく食べられるようになりました。体の具合もよくなったようです。家内は嫁が来てから、気を使うせいか、イライラしたり、体の不調を訴

## 「黒埼町の今昔」に期待

先日、県内の市町村を講演に歩かれる長岡市の知人から、本棚の整理をしていたら黒鳥兵衛の豪勇伝の本が出てきたと聞いた。この本は四十年ほど前、味

街かどは、みなさんのページです。作品(絵画、写真、イラスト、短歌、俳句、川柳、詩など)やご意見(テーマ、内容は自由)を募集しています。原則として必ず掲載します。また「われら仲間」や「私とスポーツ」にもぜひご登場ください。匿名希望者は匿名としますが、編集部には氏名をお知らせください。投稿、連絡先 黒埼町大野二八四三の「黒埼町役場企画調整課」(電話七二二〇)

えることが多く、めつきり老け込んだようでしたが、別居してからは、また以前のように、生き生きと家事にいそしんでおります。今は、別居してお互い若返つたようだと顔を合わせて笑つております。

人生長くはないのです。世間体ばかり気にしないで、残された人生を伸び伸びと、若々しく生きようではありませんか。老夫婦と若夫婦が別居して、得するのは老夫婦の方だと思います。私の場合は息子夫婦と娘夫婦は、それぞれ近くに住んでおりますので、いざという時でもすぐに来てくれるでしょう。別居もいいと思つております。

## 匿名希望(主婦)

方村の親せきからもらったもので、黒埼町の若い人たちは、黒鳥兵衛の話を知っているかどうかはわからないが、自分が持っているよりも私の子供たちに読

## 短歌

松と杉植えし丘地の下草を苧り励む辺に鶯の声  
柏 直樹地  
戸を練れば風の入り来て風鈴の音色さやかに清しさの増す  
金内セツ  
終戦後家なき我を救われし隣人逝きて悲しみ深し  
宮田ミイ  
人はみな出逢いと別れの定めあり一期一会の縁喜ばん  
石川 恵美子  
複雑な気持ちで畑に聞きいたり轟音立て行く新幹線を  
泉井ヨ子  
かぶと虫捕るといふ孫に誘はれて夜闇の森に様をさがす  
平松 清治郎  
梅食める夫と隔てていたりしに香りが部屋にひろがりにけり  
阿部 浄子  
堀越えて咲けるさくらの花紅く空梅雨続く雲のひろがる  
酒井庄平  
減反に収穫されたるモロコシは意外に味良く食膳にぎわす  
小出 美喜子

## 俳句

カツコウの一声聞いて床を出る  
梅雨あけに友に送りし花水  
青田中新幹線の試運転  
石川 恵美子  
霧の中鉄の音や茄子畑  
老へしとて若くあられど夏帽子  
佐藤 キン  
漁火を甘草を見て旅終る  
甘草の花明々して佐渡が島  
ときの住む大佐渡小佐渡夏に入る  
岩見正子

## 中の口川

佐藤 キン

た祖先を迎えるお盆だけでも減反や青田刈りは忘れようと老婆は昔を偲んで青笹でくるんだつきたの餅をほうばつたが遠い日の味はすてになく  
行革や減反のあらしはようしやなく尖つた百姓の肩に吹きつけ  
五十七年度二万四千九十八円  
要求米価の貫徹を叫んで  
ガンパローののぼりをかかげた  
百姓のデモンストレーションが  
青田一色の昔の百姓を返せ  
減反田のヨシキリがそらそらしく  
斑模様様の田にひびく  
豊かな流れ 中の口  
夕風涼しい 川辺に立ちて  
過ぎし昔を 思い出す  
上り下りの 大船小船  
船頭小唄に賑わつた  
過ぎし思い出 懐しむ  
姉さんかぶりのお嫁さん  
たすき姿で竿をさす  
小唄流して 下り船  
舟の灯 川面にゆれて  
白き月影 小舟を包む  
川のさざ波 夜のしらべ  
のどかな流れ 中の口  
耳をすませば 聞こえくる  
船頭小唄 懐しい  
目を閉じれば まぶたに浮かぶ  
流れ消え行く夫婦舟



## 柔道をとおして仲間づくり

江端 明夫 (黒鳥三十二歳)

今、私たちは町の武道場で柔道を指導しています。コー

子は約十名。三十名ほどの生徒(保育園児から高校生)を教えて四年が過ぎました。柔道教室を開いたころは、

んで欲しいと本をいただいた。この本は、明治三十年発行となつており、紙もすすけて年月の重さと、物を大切にすることへの重要さを改めて教えられた。私も子供のころ、父から黒鳥兵衛の話をよく聞かされたが、そのときはあまり興味もなく、人の子の親になつてから、もつとよく聞いておくべきだったと悔んだことがある。広報に二月から載っている黒鳥小学校の「黒埼の語りべ」に、黒鳥兵衛の話

落の名を質問される。トリハラ停留所と読むのかと思つたら、鳥原(とつばら)と言うんですね、めずらしい読み方もあるものだなあーといわれて、私には鳥原の地名の由来を知らず、説明のしようもなかつた。本場には本場の郷土誌が刊行されているので、たまに読んでみるのだが、黒埼町全体を納めた郷土誌がないものだろうかと思つていたところ、広報くろさきの六月号から、宮田さんの黒埼町の今昔がはじまり、私たちのまだ知らない、町のいろんな歴史が連載されるのではないかと、思い、私は楽しみにしている。

## 精霊の帰る日

匿名希望(主婦)

盆踊りの太鼓の音ののつて土に帰つた精霊たちが逢いに  
村は活気にあふれ  
鎌と鋳で米の作れた昔の姿に  
もどつていた  
盆踊りの仮装で霊が芽ばえ  
秋には祝言のいわいの唄  
谷地下駄みたいな足でふんばつ

う彼らのために、中学校に早く柔道部を設けてやりたいと思つています。

今の高校生や中学生の生徒は二、三年後には私たちを追い越して、黒埼の柔道を大きく強くしてもらいたいと思つています。

柔道選手になつてオリンピックを目指すことも大いにけつこう。ファミリースポーツとして、柔道を楽しみ健康な生活を送ることともよいでしょう。私は、私たちの次は彼らにこの町の柔道をもつてもらいたいです。

## 募集

ミズアンドミスターダンスクラブ参加者募集中。総合体育館 毎週木曜日夜。  
黒埼レクリエーションサークル会員募集。  
総合体育館(☎七二五三)とが町の人々に知らせたいことがありましたら連絡を。